

マダニが媒介する感染症の予防について

平成30年6月1日(金) 14時30分報道発表

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

電話：011-231-4111 (内線25-506)

道内5例目となるダニ媒介脳炎患者の発生が確認されたことから、マダニが媒介する感染症について改めて道民の皆様にご注意喚起を図ることとしましたのでお知らせします。

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ（食品等に発生する「コナダニ」や、衣類や寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など家庭内に生息するダニとは全く種類が異なる）で、ダニ媒介感染症（ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など）の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。

今の時季、山菜採りや登山・キャンプなどで自然とふれあう機会が増えることから、マダニに咬まれ、ダニ媒介感染症に感染しないよう、十分な予防対策に努めてください。

記

1 道内のダニ媒介感染症について

北海道内で過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症のは下表のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎等
ライム病	12～15日程度	発熱（微熱であることが多い）、倦怠感、慢性游走性紅斑、希に心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱（39℃以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感等

これらは、インフルエンザのように容易に人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することはありません。

2 予防方法

マダニに咬まれないようにすることが重要です。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。

屋外活動後は、すぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

3 マダニに咬まれたら

マダニは体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関（皮膚科等）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱、食欲低下、おう吐、下痢等の症状が認められた場合は医療機関（内科等）で診察を受けてください。受診の際は、いつ、どこを咬まれたか、山などに行ったかを医師に伝えてください。

【ダニ媒介感染症の発生状況】

○ダニ媒介脳炎の届出件数 (単位：人)

	H5	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	1	0	0	0	1	2	0
全国	1	0	0	0	1	2	0

○ライム病の届出件数 (単位：人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	5	6	9	3	5	9	0
全国	12	20	17	9	8	19	0

○回帰熱の届出件数 (単位：人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	0	1	1	4	5	5	0
全国	1	1	1	4	7	8	0

※H30は、第20週までの状況(今回の発生分は含まない。)

【ダニ媒介脳炎のこれまでの発生事例】

区 分	平成5年	平成28年	平成29年7月	平成29年8月	今般事例
発生届医療機関の所在地保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所	札幌市保健所	旭川市保健所
性別・年齢	女性・30歳代	男性・40歳代	男性・70歳代	男性・70歳代	女性・40歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明	道南圏域	道央圏域	道北圏域
その他	—	死亡	死亡	—	—

※ダニ媒介感染症については、北海道保健福祉部健康安全局地域保健課ホームページ (<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm>) においても注意喚起を図っています。

*道内の感染症発生状況については、北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページ (<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>) にて公開しています。